

第88回滋賀県民メーデー

戦争法廃止！許すな共謀罪！消費税増税阻止！憲法改悪許さない！



〒520-0041
滋賀県大津市浜町1-38
滋賀銀行従業員組合
TEL 077-521-2775
FAX 077-525-5232
Mail info@sbu-ffs.com
URL http://sbu-ffs.com/

5月1日、第88回県民メーデーが開催され、県内10会場に1050人が結集しました。

中央（大津）集会が行われた大津市膳所城跡公園には約400人が参加され、従業員組合員から中島委員長はじめ先輩組合員らも含め19人が参加しました。

中央会場は9時30分に、京都琉球ゆう遊会の皆さんの力強い太鼓と三線、沖繩舞踊とエイサーで始められました。



立をめぐそう。戦争する国づくり、共謀罪に反対し、アベ政権を打ち倒しよう。平和な日本、暮らしやすい社会を求めてとにもがらばろう。」

野党共闘で政権交代 願い叶える取り組みを

つぎに、日本共産党滋賀県委員会の石黒良治委員長、社民党滋賀県連の小坂淑子代表、市民の会しがの福井雅英代表から来賓の挨拶を受けました。なお、民進党滋賀県総支部連合会からはメッ

共謀罪が通れば何でもあり、 絶対に阻止しましょう

自由法曹団の石川賢治弁護士は「共謀罪法案阻止を成功させよう」と訴えられました。

残業の上限100時間は
財界言いなり実態合法化



メーデー集会の始めに、瀧上正昭実行委員長（県労連議長）が、次のような開

市民の会しがの福井代表は「衆議院選挙では野党共闘で自民党候補を打ち破り、必ず政権交代を実現して願いを叶える取り組みを進めたいと願っている。」

滋賀では先日学校を使いミサイルが飛来するという文書を配り、教育が政治の下請けになる醜い行為が行われた。安保法制の具体化を進めようとしており、この動きを許せないと思う。」と挨拶をされました。

7人がリレートーク

リレートークは、次の7人から行われました。福祉保育労の加藤佳孝さ



我慢しなくていいんだと勇気をもたえらる集会です。一緒に参加しよう」と訴えられました。

ディーセントワークの実現 新たなたかひに踏みだそう

メーデー宣言は「今こそ、最低賃金時給千円以上の実現とあわせ、8時間働けば人間らしく暮らせる働くルールの確立、ディーセントワークの実現にむけ、新たなたかひに踏みだしましょう」と呼びかけています。自治労連・大津市労連の中森淳書記長が読みあげて提案し、大きな拍手で確認しました。清水庄次副実行委員長（県労連副議長）の閉会挨拶とガンバロー三唱で閉会し、デモ行進に移りました。



金融労連の旗のもと 現職とOBが元氣に行進

会場からパルコ前まで現職組合員と先輩組合員19人は元氣にシュプレヒコールをしながら行進しました。

集会の始め少し小雨が降りましたが、デモの時には最高のメーデー日より。久しぶりの仲間にも出会え話も弾んだ良い時間を過ごしました。もちろんステージからの訴えは聞き漏らしてません。（県労連FAXニュースを参考させて頂きました。参加レポート 谷一明）



「過労自殺の発生など、長時間過密労働が大きな問題となり、繁忙期の残業上限を100時間未満へとするなど政府の「働き方改革」が出された。しかし、政府の狙いは財界言いなりを認めるもので、過労死するほどの実態を合法化するものであり、残業代ゼロの職種を認める動きもある。アベ働き方改革を許さず、人間らしい働き方のルールの確



世界の宝 日本の誇り！それは9条 第13回滋賀・憲法のつどい 守ろう平和 語ろう未来

<2017年滋賀・憲法のつどいアピール>

共謀罪法案阻止、戦争する国づくり許さぬ県民の共同を

■憲法9条を踏みじじる安倍政権の暴走が加速しつつあります。安倍政権は、発足いらい立憲主義を投げ捨て、憲法9条を乱暴にふみにじり、日本を「殺し、殺される」戦争に引き込もうとしています。

集団的自衛権を認める閣議決定、一昨年9月の安保法制一戦争法の強行可決、今国会へのテロ等準備罪一共謀罪法案の提出・・・これらが「戦争する国づくり」をめざすものであることは明白です。

国民の不安・反対の声を無視して国会に提出された共謀罪法案は、国民の目、口、耳をふさぎ、もの言えぬ状況におき、戦争への道へまっしぐらに突っ走ることを狙ったものです。だからこそ、多くの識者・国民が「戦前の治安維持法の再現を許さぬ」と声をあげているのです。

■県下各地で多彩な活動が広がっています；

滋賀・九条の会は、2004年結成いらい、毎年、「憲法のつどい」「戦争体験を語る会」などの開催をはじめ憲法9条を守る活動にとりくんできました。また、各地域・職域・分野で組織された「9条の会」は、3日の「安倍政治許さぬ」行動、9日・19日のメモリアルデー行動などさまざまな形態で憲法9条を守り生かす活動にとりくんでいます。部分的には、安倍政権の暴走を許さない野党共闘の実現のために努力する取り組みも生まれています。安保法制一戦争法の廃止を求める署名活動で、住民の2割、3割を目標に挑戦してとりくんだところも生まれました。

■共謀罪法案許さず、憲法9条を守る草の根の取り組みを強めましょう。

安倍政権の暴走が加速しつつあるとき、志を同じくする諸団体と連携しつつ、「共謀罪許さず」、「戦争する国づくり許さず」、「憲法9条を守り生かそう」のとりくみを一層強めることを呼びかけます。当面、つぎの具体的とりくみをすすめるようではありませんか。

- 1 すべての地域・職域・分野の「9条の会」が、いまとりくんでいるメモリアル行動を継続させつつ、「共謀罪法案許さず」のとりくみをさまざまな形態で強めることを呼びかけます。
- 2 すべての地域・職域・分野の「9条の会」が、会の運営と活動を持続的、系統的にとりくめるよう努力しましょう。
- 3 8月6日、大津・三井寺での「戦争体験を語る会」、秋の「9条の会」全県交流集会を成功させましょう。

滋賀・九条の会は、必要な推進体制を検討しつつ、地域・職域・分野の「九条の会」の活動の交流と情報の一層の普及に努力します。



これでいいのかわ！
軍事化が進む日本の科学
天文学者 池内了氏

5月7日、大津市生涯学習センターにおいて、滋賀・九条の会の主催による「第13回 滋賀・憲法のつどい」が開催されました。つどいには、320人が、従業員組合員と先輩組合員6人が参加しました。

憲法が何のためにあるかを自覚し声をあげよう

つどいは、鍵盤ハーモニカアンサンブル「カンタービレ」の演奏で始まりました。次に、つどいの主催者代表の挨拶が土井裕明弁護士から行われました。

土井氏は「今年は憲法施行70年で、お祝いの年はずなのにそんな状況ではない」「憲法が何のためにあるかを自覚し声をあげることが必要だ」と述べられました。

続いて、天文学者で名古屋大学名誉教授の池内了さんが「これでいいのかわ！軍事化が進む日本の科学」と題して、次の

大学の自治・学問の自由 阻害する「軍学共同」

軍学共同が、大学などの学術の場へ及ぼす悪影響はいくつもの考えられる。

第一は、学問の独立性の重要な条件として「大学の自治」と「学問の自由」が挙げられるが、それを阻害する可能性が高いことである。大学としてコントロールできない資金が防衛省から流入し、大学における研究（や教育）現場の動向を決めることが可能になるからだ。ましてや秘密研究になれば、大学当局の人間も研究室や施設に立ち入ることができなくなり、治外法権ともいうべき場となってしまうのは確実である。その改廃や将来計画も大学が自律的に決定できず、自治権を失っていくことも目に見えている。また、秘密研究が当然となれば（成果が発表できないのだから）

学問の自由を遵守しない 研究者の存在が 研究現場を萎縮させる

学問の自由な交流がなくなり、研究の自由そのものが脅かされることは言うまでもない。研究の自由は成果の自由な交流があってこそ実現されると言うべきだろう。

その（右）のことは、学問の自由を遵守しない研究者が一人でも存在することによって、研究現場が萎縮してゆく可能性を示している。自らの成果は何も発表せず、他の研究者の成果発表を聞くのみの人間が横にいたり、あたかもスパイであるかのように見なされ、やがて周囲の人間も自然に研究発表を控えるようになるからだ。さらに、もしも大学関係者が秘密漏洩罪で告訴されるようなことにもなれば、研究の自由な交流の雰囲気は薄れ、誰もが沈黙してしまっただろう。そして研究者はますます萎縮し、自己に閉じこもってしまうことは確実である。そのことは、研究が各自バラバラになり、研究者集団として互いに切磋琢磨する関係でなくなることを意味する。

軍事研究に勤しむこと 学生に対する教育的な悪影響が甚大

また、軍事研究に勤しむことは、研究の目的が人々の幸福のための真理追求でなくなることを意味するから、研究者としての原点から外れてゆくのも確実である。そのため、研究者として精神的に墮落してゆくことになる。そのような研究者から講義を受ける学生は、学ぶことに對する確信や学問に自分の人生を注ぐこと、研究や研究者への信頼感を持つことになるだろうか。あるいは、自分が学んできたことを誇りを持って社会に還元しようという気になるだろうか。学生に對する教育的な悪影響が甚大なものになることを考えねばならない。

「今が分かれ道」市民の力で改憲の動きをストップさせよう

大学は社会の次世代を担う学生たちを教育する重要な場であり、そこが軍と結託して軍事研究を当たり前のようになする場となれば、日本の未来は暗澹たるものになるだろう。そうならば社会が科学に寄せる信頼の気持ちに揺るぎを及ぼすことは確実で、科学技術文明の時代でありながら市民と科学（科学者）との連帯が壊れ、科学の社会的役割について社会を混乱させる危険性がある。科学の効用ばかりではなく、科学の弊害や短所が意識されるようになった現在、よりいっそう科学と社会との信頼関係を強めることを考えねばならないのではないだろうか。

軍学共同は学術の場へ重大な悪影響を及ぼす。「大学の自治」と「学問の自由」を阻害する可能性が高い。学問の原点は憲法の精神にある。大学は社会の次世代を担う学生たちを教育する場であり、そこが軍と結託して軍事研究を当たり前のようになする場となれば、日本の未来は暗澹たるものになるだろう。

「今が分かれ道」と、市民の力で改憲の動きをストップさせようと呼びかけられました。

「兵器と科学」より池内氏執筆 部分から一部引用

「共謀罪法案阻止」のアピールを採択

最後に、「共謀罪法案阻止、戦争する国づくり許さぬ県民の共同を」のアピール（上囲み）を採択しました。県内の地域・職域・分野の「9条の会」が、今取り組んでいるメモリアル行動などの草の根の取り組みを継続させつつ、さまざまな形態でさらに行動を強めようと呼びかけました。